

第十回日本分類学会連合公開シンポジウム

日程 平成二十三年一月八〜九日

会場 国立科学博物館新宿分館 研修研究館講堂

分類学、そして生物多様性科学の将来を考える

1月8日 13:30-17:30 シンポジウム1

「日本の分類学の現状と展望」

中山 剛 (筑波大学)

「原生物分類学の現状と展望」

細矢 剛 (国立科学博物館)

「日本の菌類分類学の歴史・現状・展望」

加藤雅啓 (国立科学博物館)

「植物分類学に対する期待」

矢部 衛 (北海道大学)

「日本の魚類分類学：現状と展望」

戸田正憲 (北海道大学)

「ゲノムベースの分子系統学に向けたささやかな試みと
系統と分類体系の問題：ショウジョウバエ科の場合」

1月9日 10:00-15:00 シンポジウム2

「遺伝子で記述する生活史形質の多様性」

吉田健太郎 (岩手生物工学研究センター)

「ゲノム情報から生物間相互作用に関与する遺伝子に迫る
—植物・微生物間相互作用を例に—」

森長真一 (東京大学)

「植物の分布と適応：ゲノムが語る低地と高地の形質分化」

奥山雄大 (国立科学博物館)

「多様な生活史形質を決定する遺伝子の探索：
非モデル生物で行う多種間比較オミクス」

大島一正 (基礎生物学研究所)

「絵かき虫の遺伝学：餌とする植物はどのように決まっているか」

細川貴弘 (産業総合技術研究所)

「共生微生物が引き起こす昆虫類の多様化：その分子機構にせまる」